

「中学生との語る会」

日時：10月5日（日） 午前10時30分から（会 場：区役所庁議室）

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が思う理想の台東区は、「勉強＝堅苦しい」というイメージを変えられる場所があることです。</p> <p>友達と会話し、お互いに励まし合って楽しく勉強できるようなスペースがもっとあれば、勉強に苦手意識がある人も少しずつ前向きになれると思います。楽しい雰囲気の中で努力することで、学ぶことが好きになったり、学力アップにつながったりするかもしれません。</p> <p>例えば、図書館を少し改装して、リラックスした自習スペースを作るなどです。気軽に集まって勉強会ができたり、居場所になったりします。静かすぎる環境や家での自習が苦手な人にとって、とても良いと思います。</p> <p>私は、そんな学びの場が増える台東区になってほしいです。</p>	<p>お友達と一緒に勉強することは、互いに励まし合うことができ、また互いに教え合うことで、学んだことをいかにわかりやすく伝えるか考える機会が得られ、知識の定着にもつながると思います。</p> <p>現在、中央図書館が入る「生涯学習センター」は改修工事をしており、令和8年12月にリニューアルオープンを予定しています。そして、工事終了後の充実内容の一つとして、個人での学習の場に加え、グループで話し合いながら学習のできる「（仮称）アクティブラーニングルーム」を設置する予定です。</p> <p>このお部屋については、皆さんに愛着を持って使ってもらえるよう愛称を募集しました。そして現在、皆さんの学校の端末を使って投票を行っていますので、ぜひご参加いただければと思います。</p> <p>※投票の結果、「アクティブラーニングルーム」の愛称は、「学び場」に決定しました。（中央図書館）</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私の考える未来の台東区は、素晴らしい文化を守りながら、今よりも多くの人に良さを知ってもらえるまちです。</p> <p>私は、習い事で書道をしています。家の近くには書道博物館があり、静かな雰囲気がお気に入りです。それでも最近は、外国人観光客の増加などの問題が増えています。それにより、今まで守られてきた下町の雰囲気が守られなくなるのではないかと心配しています。</p> <p>文化のまちとしての良さを無くさないために、美術館、博物館を守り、文化を大切にしてほしいです。外国の観光客の増加などの問題への対応と両立し、昔ながらの趣のある栄えたまちにしていきたいです。</p>	<p>書道博物館は根岸にある区立の施設で、静かな雰囲気の中で「書」に関する貴重なコレクションをゆっくりご鑑賞いただける博物館です。行ったことのある方もない方も、ぜひご覧いただければと思います。</p> <p>また、区内にはほかにも、東京初の世界文化遺産でもある国立西洋美術館など、様々な博物館や美術館があります。</p> <p>一方で、外国人観光客の方々も多く訪れており、これらの施設では外国の方にも楽しんでいただけるよう、各展示品の解説文を日本語だけでなく、英語などでも表記しています。</p> <p>また、観光客の増加に伴い、ごみのポイ捨てなど様々な問題がありますが、区ではマナー啓発や清掃活動などの取組みを行っています。</p> <p>引き続き、昔ながらの趣や良さがありながらも、さらに栄えていくよう頑張っていきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>僕が考える台東区の魅力は、住人の密接なつながりだと思います。自分の祖父母以外にも、近所の方は自分の子や孫のように声をかけてくれ、その温もりは台東区の大きな自慢だと言えます。</p> <p>ただ、昨今は観光客の増加で、生活している僕たちにも不便が生じていると感じます。確かに、浅草や上野は23区の中でも観光名所と言えます。しかし、京都市のような観光都市ではありません。だからこそ、これから20年経ったとしても、このまちの住宅と歴史が入り組んだ形が残っていてほしいと思います。</p> <p>また教育現場では、少なくなっていく子供たちが、自主的に学校を良くすることについて考えを深める取り組みがあってほしいです。新たなアイデアを手に入れるためには、中学生同士のつながりだけでなく、小・中学生や中・高生といった縦の関係を重視した学校づくりができるようになってほしいと思います。</p>	<p>台東区はお祭りなどのイベントも多く、町会の活動も活発ですし、地域の皆さん同士が密接につながっているところは、私も自慢できると感じています。地域でこのような関係性があれば、たとえ災害が起きたときにも、ご近所の方たちで協力できることもあると思います。地域での声かけやあいさつは、ずっと続いてほしいと思います。</p> <p>一方で、観光客の増加で皆さんの生活に不便なことがあるとのことですが、国内外から観光客がたくさん来ることで、経済や産業の活性化など良いこともあります。皆さんの生活が不便になってしまうのは非常に困ります。皆さんの生活をしっかり守りながら、観光について考えていきます。</p> <p>最後に、小学生や高校生との縦の世代間交流は、お互いにとって有意義なものになると思います。どうすればより良い学校になるか、またそのためにどのように取り組むのか、これからも検討していきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>僕の考える20年後は、「昔の台東区を忘れないでほしい」ということです。</p> <p>昭和の人たちの生活は今より不便で、今の時代には欠かせないスマホもありません。しかし、昔の映像に映る人々は明るく、そして今のテレビでも歌い継がれている名曲もあります。そんな昭和が僕は好きです。</p> <p>僕の住むまちは昔ながらの建物がありますが、時が進むにつれ取り壊され、マンションや大きなスーパーができて昔ながらの風景が変わってきました。</p> <p>僕の思いは、歴史ある台東区を知ってほしい一心です。近代化が進むのは良いことですが、外国人観光客が来る台東区だからこそ、伝統的な建物を残しているほうが良いと思います。「昔に戻せ」とは言いませんが、「20年後にこうなってほしい」というよりは、「昔ながらの風景を残してほしい」ということが僕の願いです。</p>	<p>「歴史ある台東区を知ってほしい」という思いは、私も同じです。今年は大河ドラマ「べらぼう」の放送をきっかけに、江戸から続く歴史や文化の魅力の発信に取り組んでいます。</p> <p>また、まちの風景や景色のことを「景観」という言葉で表すことがあります。台東区には古くて味わいのある建物がたくさんあるので、区では文化財の指定や登録の制度を活用したり、地域にある景観上重要な建物を「景観重要建造物」として指定し、古い建物を守り、昔ながらの景観を維持保全したりする取り組みを行っています。</p> <p>なお今年の3月に、「したまちミュージアム」がリニューアルオープンしました。1階の再現展示では、現在の根岸三丁目あたりを舞台に、昭和30年代の下町の風情や暮らしを味わうことができます。</p> <p>引き続き、台東区の歴史や伝統を後世に受け継いでいけるように取り組んでいきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>20年後の台東区では、現代まで行われている三社祭りや、観光名所でもある浅草寺など、歴史ある文化を大切にしつつ、隅田川や上野公園などの自然と共に守っていきたいです。</p> <p>それを踏まえて、将来、子供たちが安全に遊べる公園や施設がさらに充実し、どの世代でも安心して過ごせるような明るく元気さを保ち、世代を超えた交流がさらに広がる台東区にしていきたいです。</p>	<p>区内で行われるイベントや観光名所、自然豊かな場所は、観光にいらっしゃる方にも人気ですが、地元にお住まいの皆さんにとっては生活の一部でもあり、これからも大切に受け継いでいきたいと思っています。</p> <p>また公園については、地域の特性や利用者の意見を踏まえ、子育てやバリアフリー、防災機能など、様々な視点でこれまでも整備してきました。区では、これからも利用者のご意見を伺いながら、お子さんたちをはじめ、あらゆる世代の皆様が安全に過ごせるよう計画的に公園を整備していきます。</p> <p>施設については、令和11年度に北上野二丁目に、新たに福祉施設を開設する予定です。こちらにも子供から大人まで、障害のある方も無い方も、皆さんが気軽に立ち寄れる施設として現在準備しています。なお、若者を中心としたエリアとして、学習室やカフェ、くつろぎ空間なども整備する予定です。完成したらぜひお越しください。</p> <p>今後も全ての世代の方が、安心して元気に過ごせるような台東区であるように、私も頑張っていきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>近年、球技ができる公園が少なくなっているため、球技ができる場所を作ってほしいと思います。しかし、大きい人たちが激しくボール遊びをするのは、周りにも迷惑だと思えます。そのため、小さい子供や赤ちゃんが、のびのびボール遊びができる場所を作ってほしいです。</p> <p>さらに、コートなどを作れば、大きい人も遊べると思うので作ってほしいです。また、公園のゴミを減らしたり、ベンチを増やしたりすれば、お散歩の人も楽しめると思えます。</p> <p>公園を改良すれば、たくさんの人たちが楽しめる場となると思えます。ぜひお願いします。</p>	<p>台東区は東京23区で一番面積が小さい区であり、公園も小さい所が多いです。そのため、安全面などを考慮すると、ボール遊びできる場所の確保が難しい状況となっています。</p> <p>しかし、皆さんからの要望も多数あり、ボール遊びができる「スポーツコーナー」を設置した公園が、8か所あります。その中で、小島公園のスポーツコーナーは、今年7月に新たに整備しました。また小島公園には、小さなお子さんが安全に遊べるゴムチップ舗装の遊具エリアを新設するとともに、ベンチなどを設置することで休憩機能を充実させました。</p> <p>公園は、子供からお年寄りまで多くの皆様に楽しく安全にご利用いただけることが理想だと思います。これからもたくさんの方が楽しめる場となるよう、整備に取り組んでいきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私は、「レトロな雰囲気を残しながら、誰もが生きて暮らせる」ような、未来の台東区を思い描いています。</p> <p>20年後の台東区は、テクノロジーが溶け込んでいます。例えば、最新のAR技術を使って上野公園の歴史を眺めたり、浅草の江戸時代の賑わいを体験したりできると思います。</p> <p>また、古い建物の面白さはそのままに、内部は最新のバリアフリー設計にリノベーションされ、車椅子の方や高齢者も自由に移動できると考えます。</p> <p>商店街では、若者たちが新しいお店を立ち上げ、伝統工芸の職人さんたちと協力しながら、新しいものづくりに挑戦するようになっていると思います。</p> <p>このように伝統と革新が共存することで、台東区は「老若男女関係なく、活気あふれる街」になってほしいです。</p>	<p>古くからある歴史や文化、伝統を残しながら、時代の流れとともに新しいものを取り入れていくことは、区にとって必要なことだと思います。</p> <p>ご提案のように「AR技術」を活用し、実際に上野公園や浅草を訪れて、画面越しに江戸時代などの雰囲気を体験できれば、さらに台東区の魅力を多くの人に伝えることができると思います。</p> <p>また、台東区の南部エリアはものづくりのまちとして注目されており、バッグやアクセサリ、革小物などのお店を出したり、作業場を構えたりするクリエイターの人たちが増えてきています。そして現在、こうしたクリエイターさんたちが職人さんなどと手を組んで、新しい取り組みが行われている話も聞いています。</p> <p>歴史あるものと新しいものが共存したすばらしい区になるよう、これからも頑張っていきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が思う未来の台東区は、古き良き文化を守りながら、子供たちが元気に活動できる区です。</p> <p>現在、台東区には76か所もの公園がありますが、ボール遊びが可能である公園は8か所しかありません。もっとスポーツコーナーを増やし、子供たちがのびのびと遊べる環境を作りたいと考えています。</p> <p>また、台東区が誇る銭湯が、次々と廃業の危機に陥っています。銭湯は単なる入浴施設ではなく、地域の大切な交流の場です。次の世代まで魅力をつなげるために、区の支援が必要だと考えます。</p> <p>私が考える台東区を実現するには、これらの点が非常に重要だと思いました。</p>	<p>台東区の公園は小さい所が多く、そのため安全面などを考慮し、新たにスポーツコーナーを設置するには比較的大きな公園に限られてしまっています。そのような状況ではありますが、区内全体のバランスを見て、エリアごとに設置について考えていきます。</p> <p>また、銭湯をはじめとする公衆浴場は、高齢者の方をはじめ地域の方々の交流の場として、区民の方にとっても大切な場所です。</p> <p>区では現在、各浴場が設備改善などをする際に、助成をして経営する方々の支援を行っていますが、それでも最近の燃料費や物価の高騰により厳しい状況です。そのため、これらの助成制度がさらに経営の安定化につながるように、今後も考えていきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が考える未来の台東区は、伝統と新しさが共に生きるまちです。</p> <p>浅草のにぎやかな雰囲気や、上野の文化と自然を守りながら、さらに魅力のある台東区になってほしいです。例えば、上野公園には四季折々の花や芸術作品を楽しめる博物館がありますが、それは中に入ってみないと楽しめないと思います。そのため、散歩しながら気軽に自然と芸術、文化の両方に触れられる空間になるように、公園の中にちょっとした芸術を取り込むのが良いと思います。</p> <p>未来の台東区は、「暮らす人も訪れる人も楽しめるまち」になってほしいと考えています。</p>	<p>台東区は、上野や浅草をはじめとして様々な文化資源がありますが、特に上野の山には、博物館や美術館、動物園、音楽ホールなどの多数の文化施設があります。さらに、今の時期は、“芸術の秋”ということで、数々の文化・芸術イベントが開催されています。</p> <p>隅田川エリアには、浅草から東京スカイツリーをアートでつなぐ、「GTS（藝大・台東・墨田）観光アートライン」があります。隅田公園をはじめ、東京スカイツリーのビューポイントに環境アート12作品と、アートベンチ5作品が設置されており、アートに触れながら観光や散策を楽しんでいただくことができます。</p> <p>これからも「暮らす人も訪れる人も楽しめるまち」になるように、様々な文化資源を活かしながら取り組んでいきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が考える未来の台東区は、今の良さや昔の伝統、建物などを残しながら、最新技術を使って、ビルの屋上には緑の庭園を作ったり、野菜や花を育てたり、太陽光パネルで自分たちで電気を作れたりする、地球にもやさしい台東区です。</p> <p>学校などの公共施設には、地震や台風にも強い素材を使って安全に暮らせるようにしたり、壁にテレビなどの画面をつけてニュースや天気を見られるようになったりすれば、もっと快適に伝統を守りながら、昔の良さと今の良さを合わせてより良いまちになり、新しいことにもチャレンジするようなまちになっていくと思います。</p>	<p>地球にやさしい台東区であることは、とても大切なことです。</p> <p>区役所の屋上には「屋上ガーデン」があり、どなたでも見学することができます。民間企業と協力しながら、屋上緑化の見本を紹介しています。</p> <p>また、太陽光パネルについては「再生可能エネルギー機器」という言い方をしますが、台東区では導入を検討している方に向けて、助成を行っています。太陽光パネル以外には、家庭用蓄電池やLED照明も対象です。</p> <p>小・中学校の設備については、修理や改修をしてからどのくらいの時間が経過したかを基準に、古くなってきたところを補強しています。</p> <p>引き続き、みなさんが安全に学校で勉強に励めるように区も取り組んでいきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私は将来、台東区に今以上にきれいなまちになってほしいと思います。なぜなら、台東区は浅草寺や国立科学博物館、上野東照宮などの観光地がたくさんあり、また最近では大河ドラマのモデル地としても知られるため、今後さらに多くの観光客が見込まれるからです。</p> <p>しかし、学校の活動で周辺を清掃していると、毎回大量のごみを拾うことができます。最初の頃は、「駅が近くて通勤・通学にも頻繁に使われるため仕方ない」と思っていました。ただ最初に言ったとおり、台東区は観光地が非常に多く、今後さらに観光客が訪れるかもしれません。そのため、台東区に来てくれる人に今以上に喜んでもらえるために、「きれいな道、きれいな公園、きれいなまちの台東区」になってほしいと思います。</p> <p>ごみを減らすには、一人一人の考え方を変えなければいけません。しかし、それは非常に難しいことです。一時的な対策かもしれませんが、張り紙や呼びかけなども効果的だと思います。また生徒代表として、今後も学校周辺の清掃活動に力を入れるとともに、「どうやったらごみを減らせるか」についても話し合いをしていきます。</p>	<p>学校の活動で清掃活動をされているとのことで、日頃よりまちの美化にご協力いただきありがとうございます。</p> <p>区では、「東京都台東区ポイ捨て行為等の防止に関する条例」を施行し、まちの美化を推進しているところですが、残念ながら道路上などにごみが落ちていることがあります。</p> <p>ごみのポイ捨てを防ぐため、区でも様々な取り組みをしています。学校の清掃活動として参加いただいている「大江戸清掃隊」の取り組みは、学校だけではなく、区民の方や区内で働いている方にも登録してもらい、清掃用具のほか、お揃いの半纏やたすきをお渡ししてまちの美化に取り組んでいただいています。</p> <p>また、毎月10日を「たいとうクリーンアップデー」とし、清掃活動の普及啓発を図ったり、実際に区の職員も清掃に参加したりして状況の把握などを行っています。</p> <p>こうした清掃活動も行っていますが、一番良いのはごみが捨てられないようになることです。区では観光客に向け、ごみの持ち帰りなどを含めたマナーを紹介するチラシを配ったり、実際にごみを持ち帰るための袋を配ったりするなどの活動も行っています。</p> <p>これからもごみが捨てられないための啓発や清掃活動を通じ、地域の皆さんのご協力をいただきながらまちの美化に取り組んでいきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私が考える未来の台東区は、伝統的なものがより身近になっている台東区です。</p> <p>台東区は伝統芸能や伝統工芸品がたくさんあると思います。それはとても素晴らしいことであると同時に、もっと身近にできるものだと考えました。</p> <p>また、台東区は上野や浅草など、とても有名な観光地が多くあり、たくさんの観光客が来ていると思います。そこで、お点前の体験や箸を自分で作るなど、日本らしい体験ができるサービスが、より多くなっている台東区になってほしいとも思いました。</p>	<p>江戸時代より以前から、浅草にはお寺などを建てるために職人が集まっていました。その後、上野に寛永寺が建立されてたくさんの寺院が増えるとともに、地域には職人や商人など多くの人が住み、江戸一番の賑わいだったそうです。このような背景のもと、伝統芸能や伝統工芸が発展して、今でもその文化が受け継がれています。</p> <p>例えば伝統芸能は、毎年浅草寺で開催される「台東薪能」や、多彩な芸能・芸術文化を皆さんに楽しんでいただけるよう「江戸まちたいとう芸楽祭」も毎年開催しています。</p> <p>伝統工芸では、「江戸たいとう伝統工芸館」にたくさんの伝統工芸品が展示されています。また、「台東区手作り工房マップ」には、お箸づくりを体験できる工房なども掲載されています。</p> <p>区ではこれからも伝統芸能や伝統工芸を皆さんに知っていただき、身近に感じていただけるよう、様々な取組みを通じて発信していきます。</p>

◇こんな台東区になってほしい！私が考える「未来の台東区」

提案	回答
<p>私の考えた未来の台東区は、「災害に強い台東区」になってほしいです。例えば広報「たいとう」に、小さいコラムのような災害に対しての備えについて掲載してみたり、子供たちにも遊び感覚で災害の恐ろしさや備えについて考えることのできる、オリジナル災害対策ノートやクイズなどを作成したりすれば、気軽かつ簡単に災害と備えについて考え、学ぶことができると思います。</p> <p>また、一時避難場所や避難場所に向かう安全なルートを見つけたり、自分の家に足りない備蓄品を確認することができるチェックリストなどの機能を備えたりした、台東区内の災害の備えに関するアプリを作成してみても良いと思います。</p> <p>そのような活動を行うことで、家族や身の周りの人たちと「災害の備え」について話し合う機会ができ、台東区民一人一人が災害に対しての備えの意識が高まっていくのではないかと考えています。また、災害に強くなったことで、地震がもし起こった場合、地震がない国の外国人観光客が安心することもできるのではないかと考えています。</p>	<p>区でも、防災に関する内容は定期的に広報「たいとう」に掲載していますが、子供向けのものは少ないかもしれません。災害を学ぶ機会としては、小学校などに起震車を派遣し、地震の揺れのすごさを体験してもらっています。休日には町会での出前講座や、防災イベントを行っていることもあるので、ご家族やお友達と参加してみてください。ほかにも、関東大震災100年であった令和5年からは、子供を対象に復興公園などを回る「震災遺構ツアー」も行っています。</p> <p>また、避難場所に向かうまでにも危険が伴うことがあります。区で作成している防災アプリ「台東防災」では、避難場所へのルートを検索する機能があります。アプリからは防災地図やハンドブックも見ることができ、3か国の外国語版もあります。</p> <p>今年度は各家庭に、安全・安心ハンドブックやハザードマップなどをお配りする予定です。ご家族で地図やアプリを見ながら、災害時の連絡手段や備蓄について話し合う機会にしてみてください。今自分の家の冷蔵庫や食品棚に、何日分の食料があるのか調べてみることをおすすめします。</p> <p>今回のご意見を参考にしながら、これからも「災害に強い」台東区を作っていきます。</p>